

平成13年度  
市民意識調査  
報告書  
《概要版》

平成14年2月

加古川市

## はじめに

市民意識調査報告書の発行にあたりごあいさつを申し上げます。

平素、皆様方には加古川市政各般にわたり、格別のご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、この度、市民意識調査を実施いたしましたところ、多数のご回答をいただき深く感謝申し上げます。

さて、地方分権が本格化する中、その趣旨をふまえ、地域の実情に沿った、よりきめ細かな対応を図るため、本市は今春4月から「特例市」へ移行いたします。このことにより今後一層地域に密着した魅力あるまちづくりを行えるものと考えております。

しかしながら、まちづくりは行政のみで進めるものではなく、市民の皆様と「共に考え」、「共に責任を分かち合い」、「共に働く」協働のもとに取り組んでいくことが重要であります。

そこで、市民の皆様が日々の暮らしの中で、市政についてどのように考え、何を望んでおられるかを的確に把握・分析し、施策に反映していくため、この市民意識調査を実施いたしました。ご回答いただいた貴重なご意見ご提案は十分に検討し、今後の市政運営の基礎資料として活用させていただきたいと考えております。

皆様方には、これからも本市のまちづくりになお一層のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年2月

加古川市長 木下正一

## <目 次>

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の内容	1
3. 調査設計	1
4. 回収結果	1
5. 報告書の見方	2
II. 回答者の属性	3
1. 性別	3
2. 年齢	3
3. 家族構成	3
4. 職業	4
5. 居住年数	4
6. 居住地区（生活圏）	4
III. 調査結果の概要	5
1. 市に対する全体評価	5
2. 生活環境に関する評価	6
3. 暮らしてみたいと思うまち	9
4. 文化について	10
5. 公園について	13
6. 男女の役割や考え方について	16
7. 市の行財政改革について	18
8. 広域的なまちづくりについて	20
9. 自由意見のとりまとめ	21

# I. 調査の概要

## 1. 調査の目的

市民の生活実態や生活環境に関する意識、市政に対する要望など、多様化する市民ニーズを把握して、今後の市政運営の基礎資料を得ようとするものです。

## 2. 調査の内容

- |                        |                    |
|------------------------|--------------------|
| (1) 市に対する全体評価          | (6) 男女の役割・考え方      |
| (2) 生活環境評価             | (7) 市の行財政改革に対する考え方 |
| (3) 市の将来像              | (8) 広域的なまちづくり      |
| (4) 文化に対するイメージ・要望      | (9) フェースシート        |
| (5) 公園の現状・公園でのボランティア活動 | (10) 市への意見、要望      |

## 3. 調査設計

- |          |  |
|----------|--|
| (1) 調査地域 | 加古川市全域                                 |
| (2) 調査対象 | 平成13年6月1日現在、住民基本台帳登載者及び外国人登録者で満20歳以上の人 |
| (3) 標本数  | 5,000サンプル                              |
| (4) 抽出方法 | 無作為抽出                                  |
| (5) 調査方法 | 郵送配付および郵送回収法                           |
| (6) 調査期間 | 平成13年7月5日(木)～7月19日(木)                  |

## 4. 回収結果

- |             |                  |       |
|-------------|------------------|-------|
| (1) 全体の回収状況 | ● 発送数            | 5,000 |
|             | ● 実質発送数(発送数－返戻数) | 4,967 |
|             | ● 有効回収数          | 1,819 |

\* 有効回収数は、回収した調査票から記入のない調査票を除いた数です。

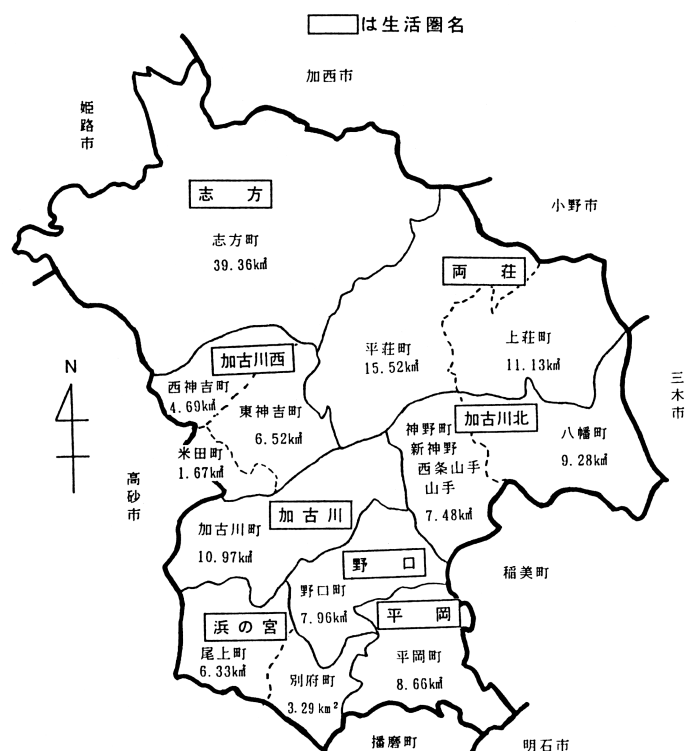
### (2) 年齢別回収状況 (人口は20歳以上)

年 齢	人 口	発送数	返戻数	実質発送数	有効回収数	有効回収率(%)
20歳代	40,590	971	1	970	227	23.4
30歳代	36,985	891	11	880	293	33.3
40歳代	34,172	813	10	803	293	36.5
50歳代	43,702	1,047	8	1,039	435	41.9
60歳代	28,664	665	3	662	329	49.7
70歳以上	24,177	613	—	613	237	38.7
年齢不明	—	—	—	—	5	—
合 計	208,290	5,000	33	4,967	1,819	36.6

(3) 居住地区（生活圈）別回収状況（人口は20歳以上）

居住地区	人口	発送数	返戻数	実質発送数	有効回収数	有効回収率(%)
加古川	42,797	1,028	7	1,021	369	36.1
加古川北	18,375	435	—	435	169	38.9
野口	28,032	675	10	665	228	34.3
平岡	39,406	949	1	948	351	37.0
浜の宮	35,092	838	9	829	284	34.3
両荘	9,257	225	—	225	74	32.9
加古川西	24,599	590	5	585	248	42.4
志方	10,732	260	1	259	89	34.4
地区不明	—	—	—	—	7	—
合計	208,290	5,000	33	4,967	1,819	36.6

生活圈構成図

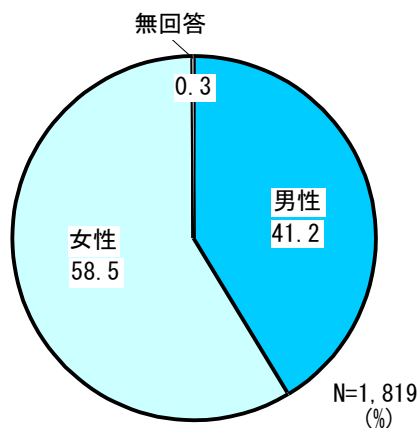


5. 報告書の見方

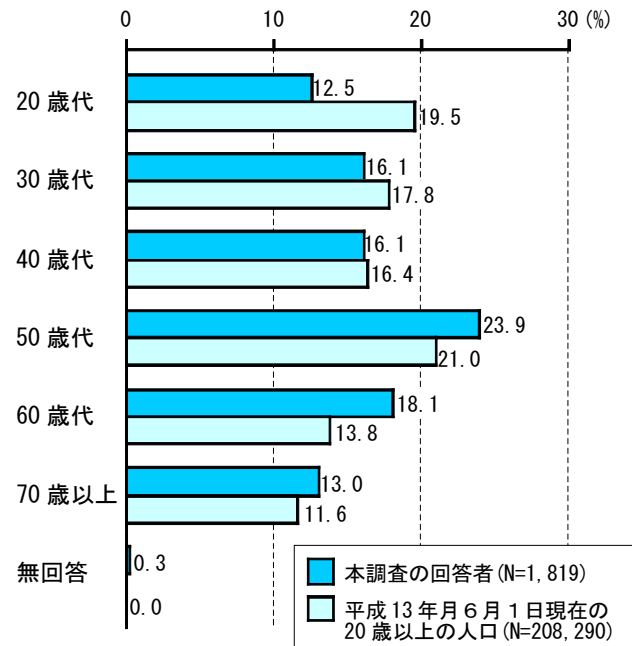
- ・ 比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入したため、構成比の合計が100%にならないことがあります。
- ・ 基数となるべき実数は、その設問の回答者数を意味し、Nとして掲載しています。その際の比率は、Nを100%として算出しています。
- ・ 複数回答は、1人の対象者が2つ以上の回答をしてもよい場合をいい、したがって、複数回答の合計は100%を上回ることがあります。

## Ⅱ. 回答者の属性

### 1. 性別



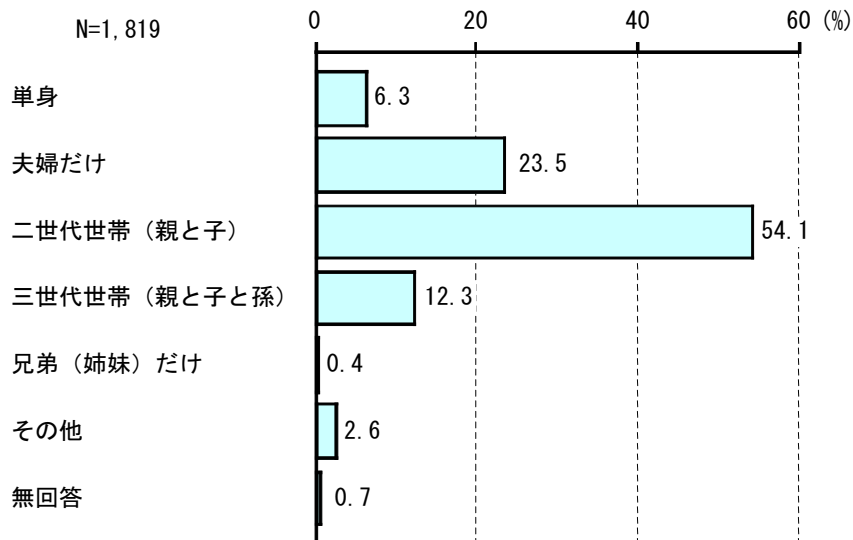
### 2. 年齢



○回答者全体の男女比は、およそ4対6となっています。

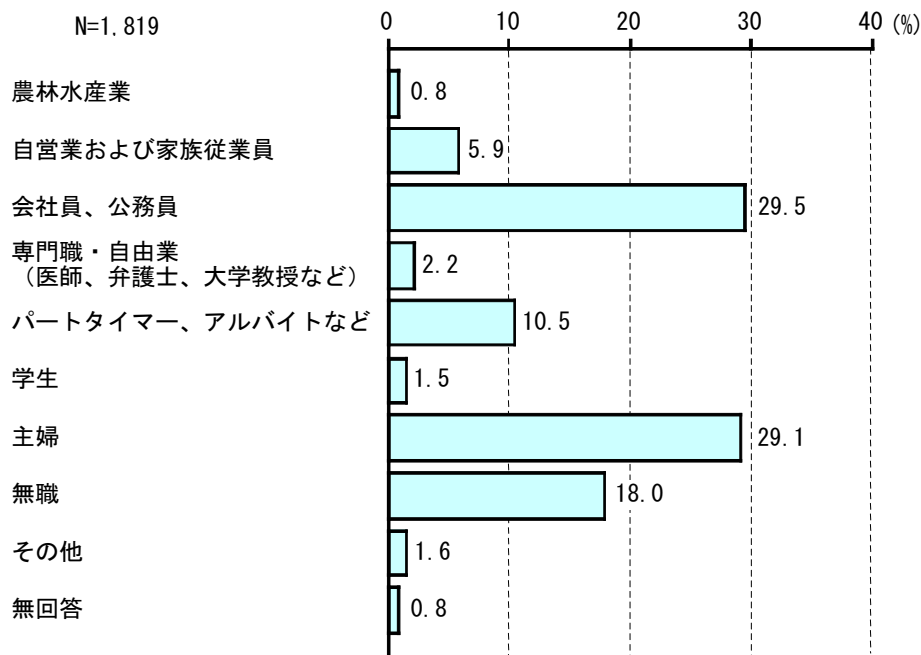
○50歳代の回答率が最も高く、20歳代および70歳以上の回答率が低くなっています。

### 3. 家族構成



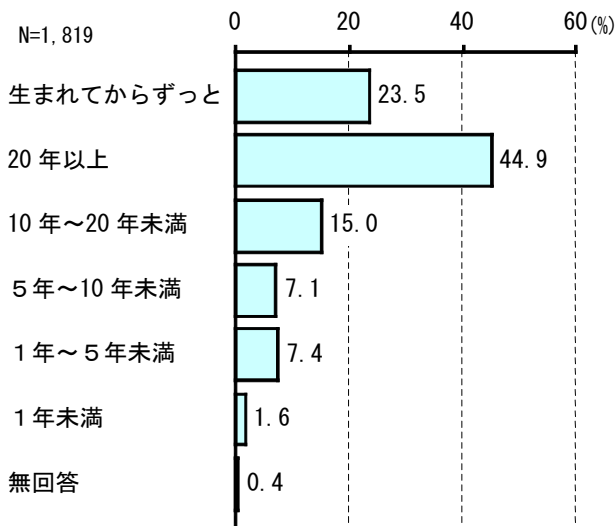
○「二世世代世帯 (親と子)」が5割以上を占め、次いで「夫婦だけ」が約2割となっています。

#### 4. 職業

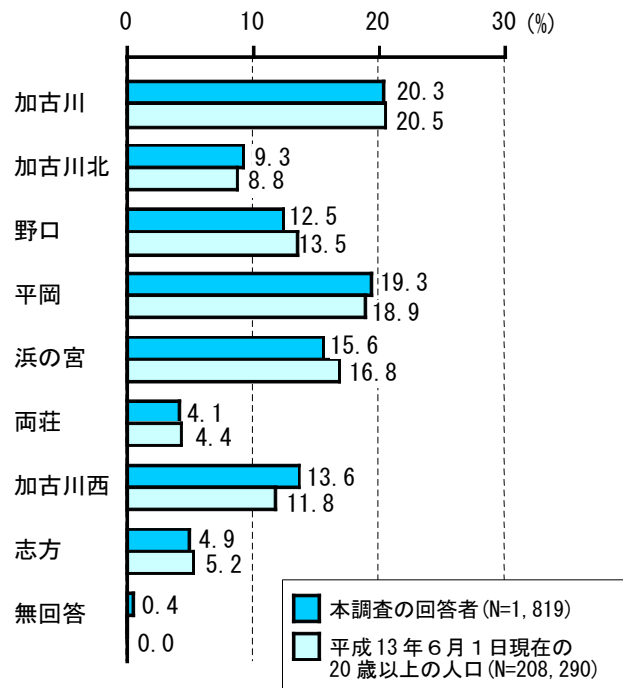


○多い職業は「会社員、公務員」、「主婦」で、各3割を占めています。

#### 5. 居住年数



#### 6. 居住地区（生活圏）



○居住年数は「20年以上」が最も多く、次に「生まれてからずっと」が続き、両者を合わせると全体の7割近くを占めています。

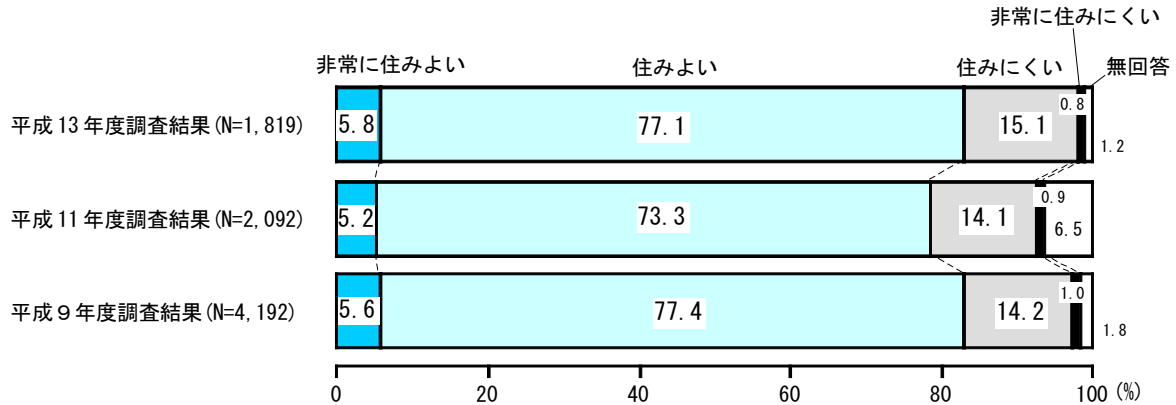
○各居住地区における人口比率と今回の調査の回答比率は、ほぼ同じ比率となっています。

### Ⅲ. 調査結果の概要

#### 1. 市に対する全体評価

##### 1-1. 市の住みやすさについて

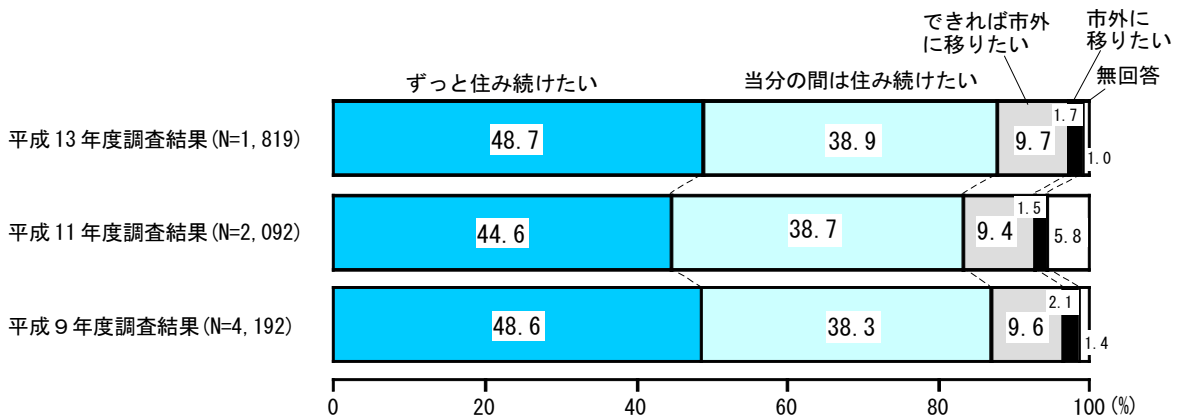
●「住みよい」という評価が8割以上



○市の住みやすさについては、「住みよい」と感じる人が7割強を占め、「非常に住みよい」と合わせると、8割以上が『住みよい』まちと感じています。

##### 1-2. 定住意向について

●定住意向を持つ人が約5割



○定住意向については、「ずっと住み続けたい」が約半数を占め、「当分の間は住み続けたい」が約4割と続き、両者を合わせると9割近くを占めています。



## 2. 生活環境に関する評価

生活環境などの40項目に対する、満足度と重要度の評価について、理解しやすいように評価を得点化し、各項目の平均点を算出しました。この得点が高いほど、満足度および重要度が高いことを意味しています。

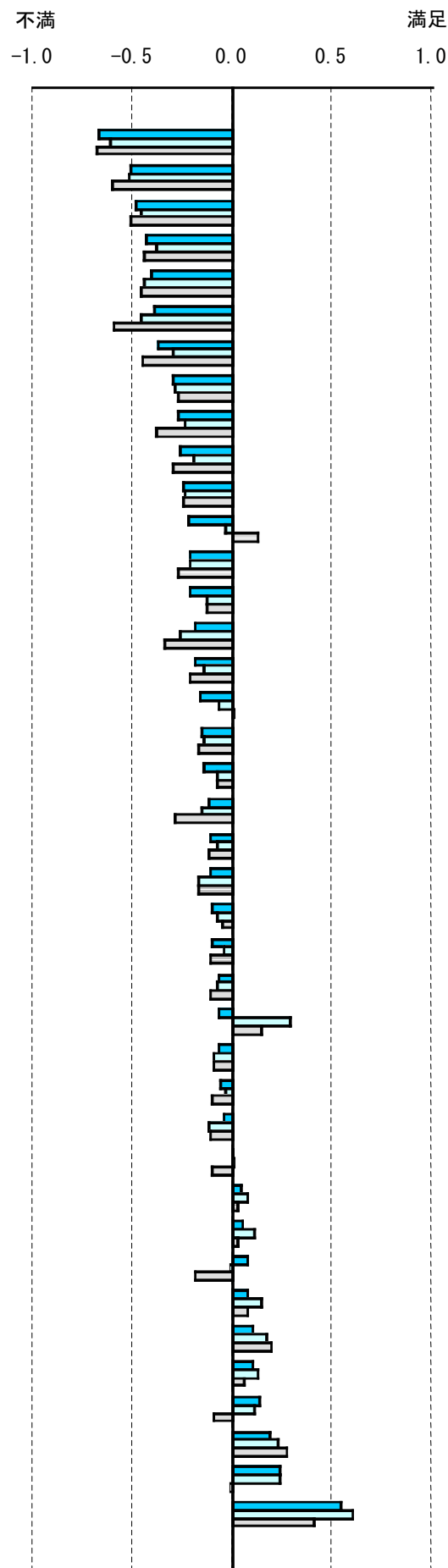
【満足度および重要度の得点基準】

満 足 度	重 要 度	得 点
「満足」	「特に重要である」	2点
「やや満足」	「重要度が高い」	1点
「どちらともいえない」	「普通である」	0点
「やや不満」	「重要度が低い」	-1点
「不満」	「全く重要でない」	-2点

- 満足度の低い項目としては、「バスの利便性」、「自宅周辺での子どもの遊び場の確保」、「自宅周辺の道路の広さや舗装」、「騒音、振動、悪臭等の対策」、「河川等の水質や大気汚染対策」と続いています。
- 最も重要度の高い項目は、「河川等の水質や大気汚染対策」で、次いで「ごみの収集、処理対策」、「水道水の安定供給と水質」、「地震、火災、水害などの災害対策」、「医療機関や診療体制」の順となっています。

【図2-1. 生活環境に関する満足度】

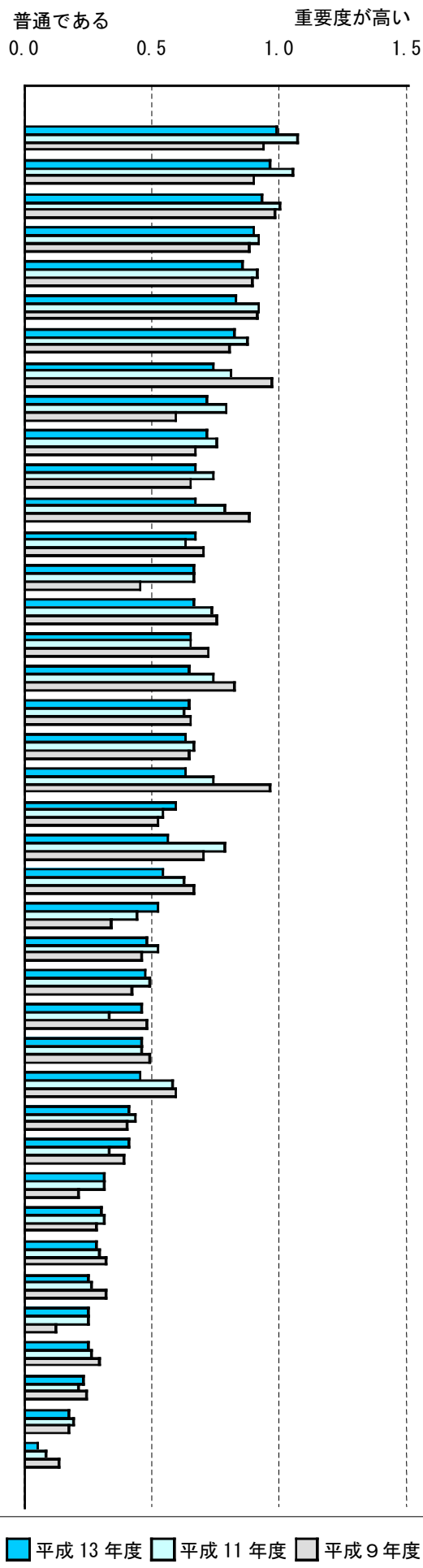
項目	得点		
	H13	H11	H9
バスの利便性	-0.67	-0.61	-0.68
自宅周辺での子どもの遊び場の確保	-0.51	-0.52	-0.60
自宅周辺の道路の広さや舗装	-0.48	-0.46	-0.51
騒音、振動、悪臭等の対策	-0.43	-0.38	-0.44
河川等の水質や大気汚染対策	-0.41	-0.44	-0.46
道路網や橋の整備	-0.39	-0.46	-0.59
ゆとりと潤いのあるまちなみ	-0.37	-0.30	-0.45
信号機、ガードレールなどの交通安全施設	-0.30	-0.29	-0.27
介護保険の取り組み（在宅介護への支援）	-0.27	-0.24	-0.38
青少年の健全育成	-0.26	-0.19	-0.30
公園や緑地の整備	-0.25	-0.24	-0.25
商業の振興	-0.22	-0.03	0.13
高齢者への福祉施策	-0.21	-0.21	-0.27
保育所などの児童福祉施策	-0.21	-0.13	-0.13
地震、火災、水害などの災害対策	-0.18	-0.26	-0.34
心身障害者（児）への福祉施策	-0.18	-0.14	-0.21
工業の振興	-0.16	-0.07	0.01
国際化への対応	-0.15	-0.14	-0.17
農林水産業の振興	-0.14	-0.08	-0.08
下水道の整備	-0.12	-0.15	-0.29
母（父）子家庭への福祉施策	-0.11	-0.08	-0.12
医療機関や診療体制	-0.11	-0.17	-0.17
情報化社会への対応	-0.10	-0.08	-0.05
幼稚園、小・中学校の施設や教育内容	-0.10	-0.04	-0.11
音楽会、美術展等の開催	-0.07	-0.08	-0.11
鉄道の利便性	-0.07	0.29	0.15
水道水の安定供給と水質	-0.07	-0.09	-0.09
緑化、自然保護の推進	-0.06	-0.03	-0.10
男女共同参画社会の取り組み	-0.04	-0.12	-0.11
まちづくりへの市民参加	0.00	0.01	-0.10
生涯学習、文化サークル活動	0.04	0.08	0.03
体力づくり、スポーツ活動の振興	0.05	0.11	0.03
高校、大学などの整備	0.08	-0.01	-0.18
ごみの収集、処理対策	0.08	0.15	0.08
住民健診や生活習慣病予防活動	0.10	0.17	0.20
史跡、伝統文化等の保護	0.10	0.13	0.06
健康増進（ウェルネス）のための施策	0.14	0.11	-0.09
隣近所とのつきあい、交流	0.19	0.23	0.27
市役所、市民センターの利用のしやすさ	0.24	0.24	-0.01
日常の買い物の利便性	0.54	0.61	0.41



■平成13年度 ■平成11年度 ■平成9年度

【図2-2. 生活環境に関する重要度】

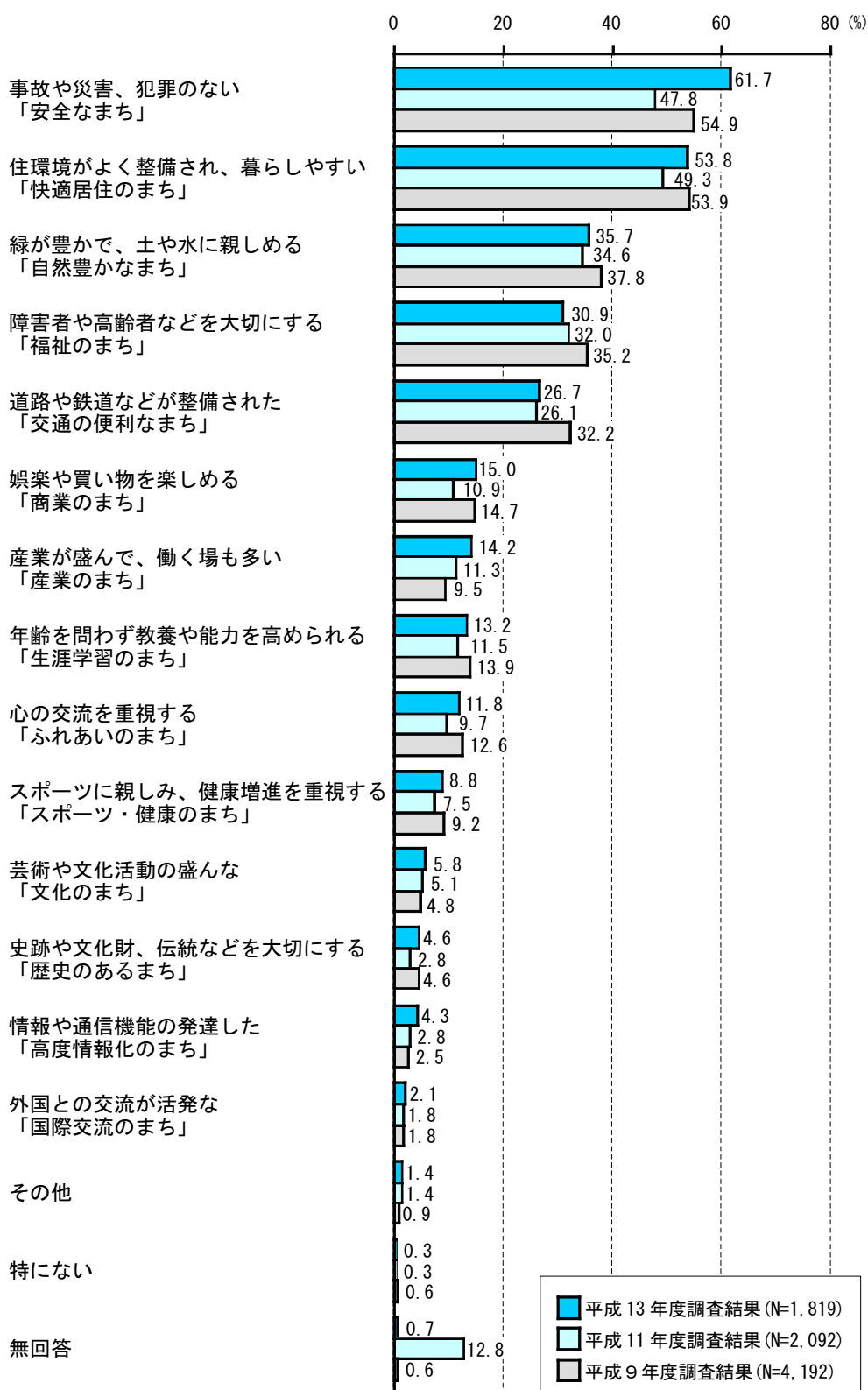
項目	得点		
	H13	H11	H9
河川等の水質や大気の汚染対策	0.99	1.07	0.94
ごみの収集、処理対策	0.96	1.05	0.90
水道水の安定供給と水質	0.93	1.00	0.98
地震、火災、水害などの災害対策	0.90	0.92	0.88
医療機関や診療体制	0.85	0.91	0.89
高齢者への福祉施策	0.83	0.92	0.91
騒音、振動、悪臭等の対策	0.82	0.87	0.80
下水道の整備	0.74	0.81	0.97
日常の買い物の利便性	0.71	0.79	0.59
緑化、自然保護の推進	0.71	0.75	0.67
心身障害者（児）への福祉施策	0.67	0.74	0.65
介護保険の取り組み（在宅介護への支援）	0.67	0.78	0.88
幼稚園、小・中学校の施設や教育内容	0.67	0.63	0.70
市役所、市民センターの利用のしやすさ	0.66	0.66	0.45
信号機、ガードレールなどの交通安全施設	0.66	0.73	0.75
自宅周辺での子どもの遊び場の確保	0.65	0.65	0.72
自宅周辺の道路の広さや舗装	0.64	0.74	0.82
青少年の健全育成	0.64	0.62	0.65
住民健診や生活習慣病予防活動	0.63	0.66	0.64
道路網や橋の整備	0.63	0.74	0.96
保育所などの児童福祉施策	0.59	0.54	0.52
鉄道の利便性	0.56	0.78	0.70
公園や緑地の整備	0.54	0.62	0.66
情報化社会への対応	0.52	0.44	0.34
母（父）子家庭への福祉施策	0.48	0.52	0.46
商業の振興	0.47	0.49	0.42
高校、大学などの整備	0.46	0.33	0.48
隣近所とのつきあい、交流	0.46	0.46	0.49
ゆとりと潤いのあるまちなみ	0.45	0.58	0.59
健康増進（ウェルネス）のための施策	0.41	0.43	0.40
バスの利便性	0.41	0.33	0.39
工業の振興	0.31	0.31	0.21
まちづくりへの市民参加	0.30	0.31	0.28
生涯学習、文化サークル活動	0.28	0.29	0.32
男女共同参画社会の取り組み	0.25	0.26	0.32
農林水産業の振興	0.25	0.25	0.12
体力づくり、スポーツ活動の振興	0.25	0.26	0.29
史跡、伝統文化等の保護	0.23	0.21	0.24
国際化への対応	0.17	0.19	0.17
音楽会、美術展等の開催	0.05	0.08	0.13



### 3. 暮らしてみたいと思うまち

●「安全性」と「快適性」を重視する意見が5割以上

(複数回答)

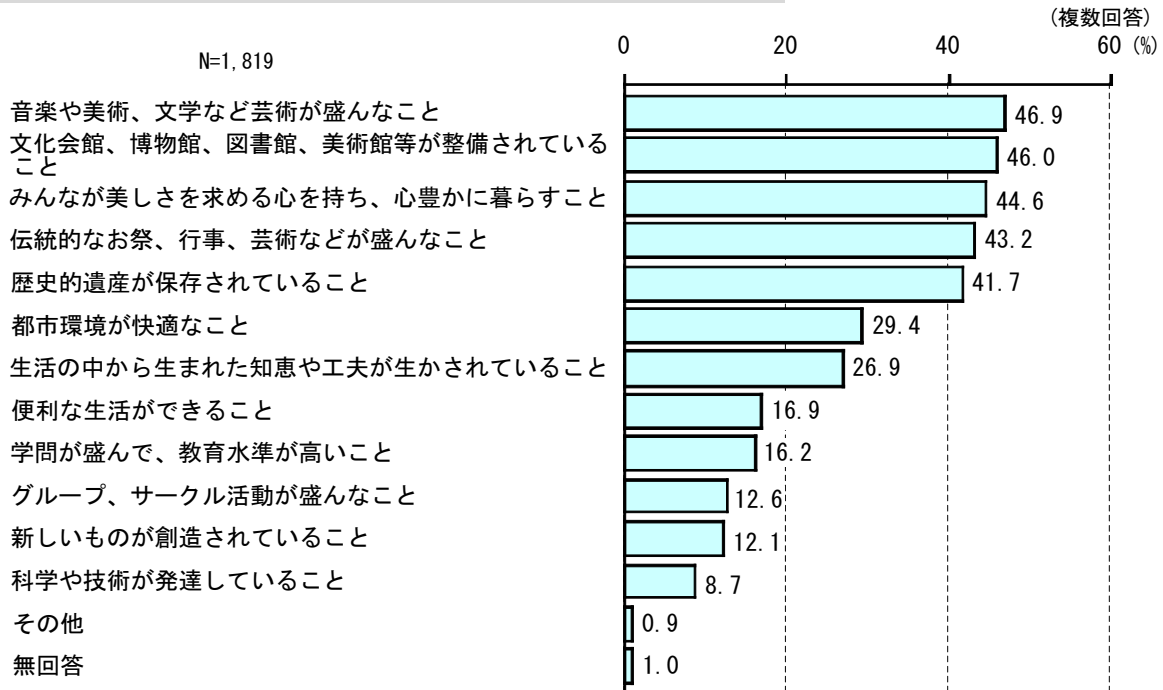


○「安全なまち」、「快適居住のまち」が5割以上を占め、次いで「自然豊かなまち」、「福祉のまち」が3割以上となっています。

## 4. 文化について

### 4-1. 文化に対するイメージ

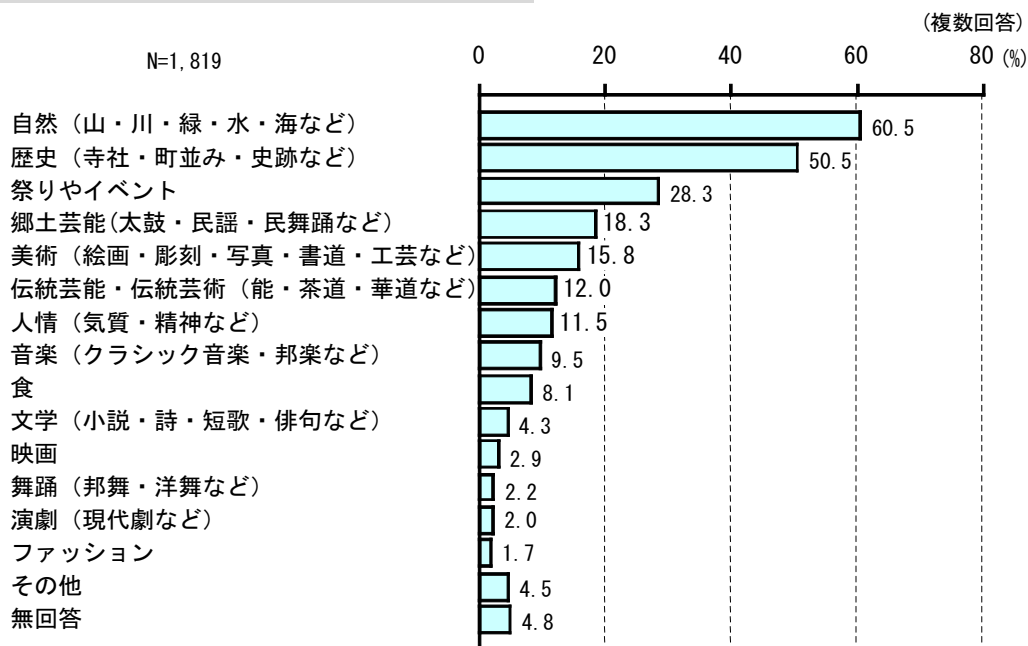
#### ● 芸術が盛んなことや文化施設の整備などのイメージが4割以上



○文化に対しては、「芸術が盛んなこと」、「文化施設の整備」、「心豊かな暮らし」、「伝統的な祭や行事が盛んなこと」、「歴史的遺産の保存」とイメージする人が4割以上となっています。

### 4-2. 「加古川の文化」からの連想

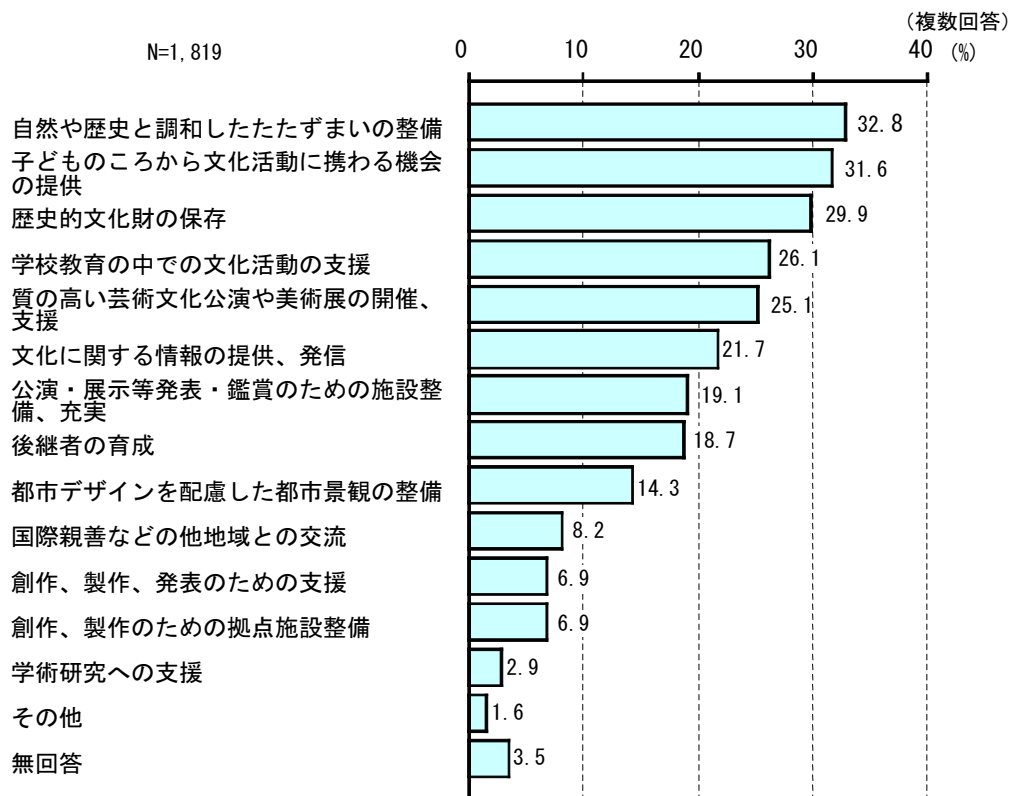
#### ● 「加古川の文化」＝「自然」「歴史」が5割以上



○「加古川市の文化」については、「自然」と連想する人が6割、次いで「歴史」と連想する人が5割以上となっています。

### 4-3. 加古川の文化振興のため行政に望むこと

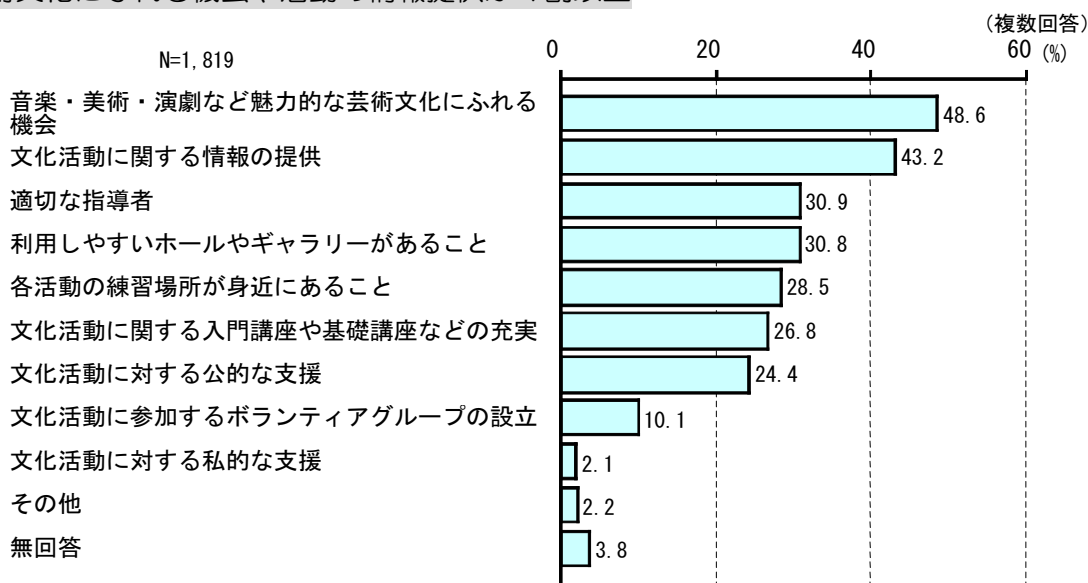
#### ●自然や歴史との調和、文化活動に携わる機会を望む声が3割



○加古川の文化振興のために、「自然や歴史との調和」、「文化活動に携わる機会」、「歴史的文化財の保存」を約3割が望んでいます。

### 4-4. 文化活動に積極的に参加できるように必要なこと

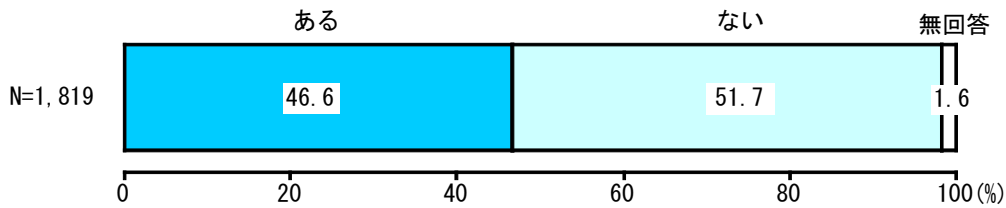
#### ●芸術文化にふれる機会や活動の情報提供が4割以上



○文化活動への積極的な参加には、「芸術文化にふれる機会」(48.6%)、「活動に関する情報提供」(43.2%)を必要とする人が4割以上と多くなっています。

#### 4-5. 市内施設での文化的催しの鑑賞について

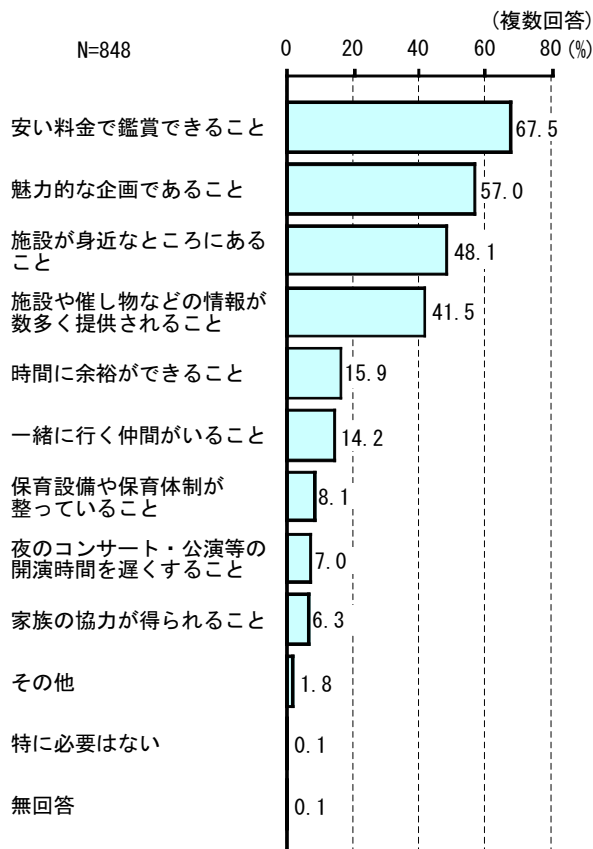
##### ●（過去1年間での）観賞経験者は5割弱



○市内施設での文化的催しについて、観賞したことのある人は46.6%、ない人は51.7%を占めています。

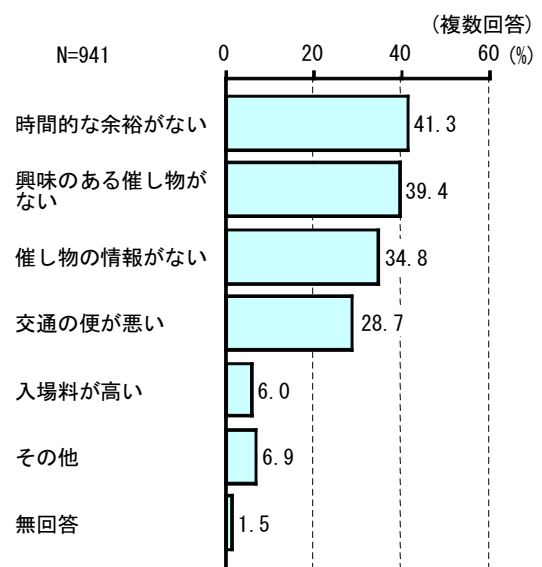
##### 4-5-1. より多くの文化的催しを鑑賞するために必要な条件

##### ●「料金が安い」という条件が第1位



##### 4-5-2. 市内の施設を利用しなかった理由

##### ●「時間がない」、「興味のない内容」という理由が約4割



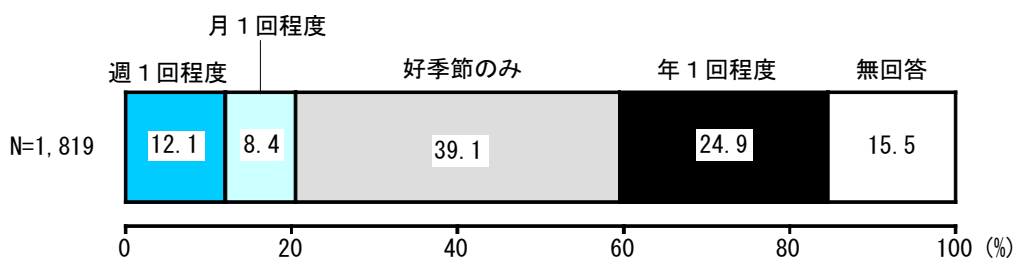
○今後もより多くの催しを観賞するための条件として、「料金が安い」が約7割と最も多く、次いで「魅力的な企画」が約6割となっています。

○市内の施設を利用しなかった理由として、「時間的な余裕がない」、「興味のある催し物がない」が約4割、「催し物の情報がない」が3割強で続いています。

## 5. 公園について

### 5-1. 公園の利用頻度

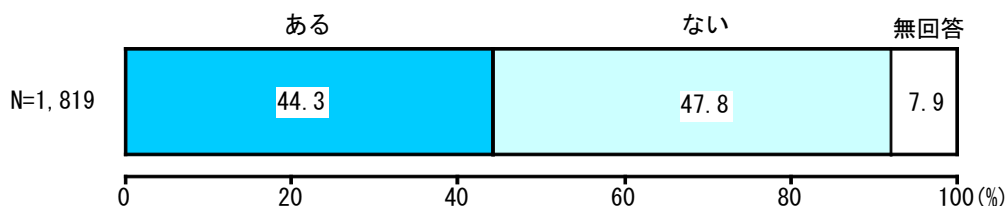
●好季節のみの利用が約4割



○公園の利用については、「好季節のみ」が約4割と最も多く、次いで「年1回程度」となっています。

### 5-2. 公園についての希望

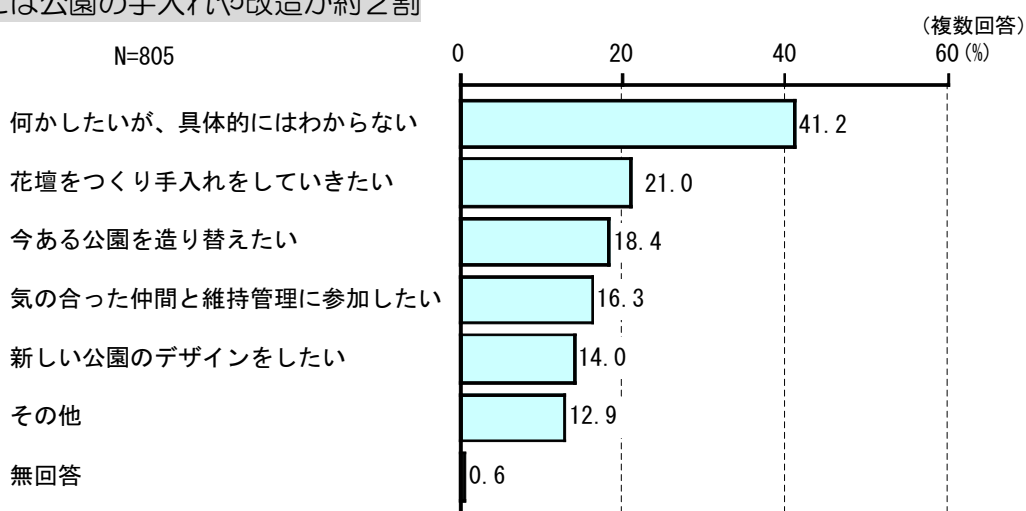
●希望のある人が4割強



○公園に対して、全体の4割強は『こうしたい』という希望が「ある」と回答しています。

#### 5-2-1. 公園についての希望の内容

●具体的には公園の手入れや改造が約2割

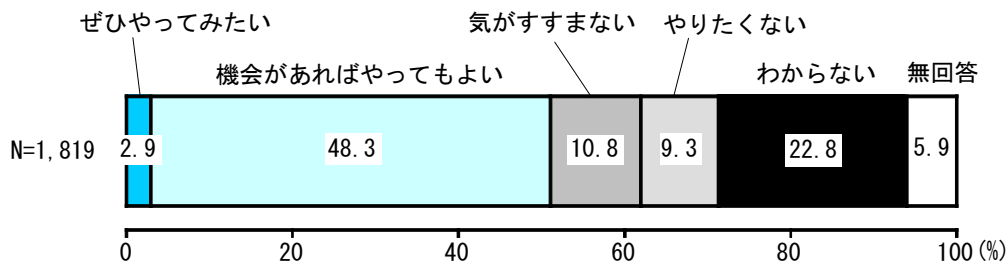


○公園を『こうしたい』と希望している人のうち、4割は「具体的にはわからない」と回答しています。一方、具体的な希望のある人では、「手入れをしていきたい」、「今の公園を造り替えたい」という回答が約2割を占めています。



### 5-3. 「公園ボランティア」の参加意向

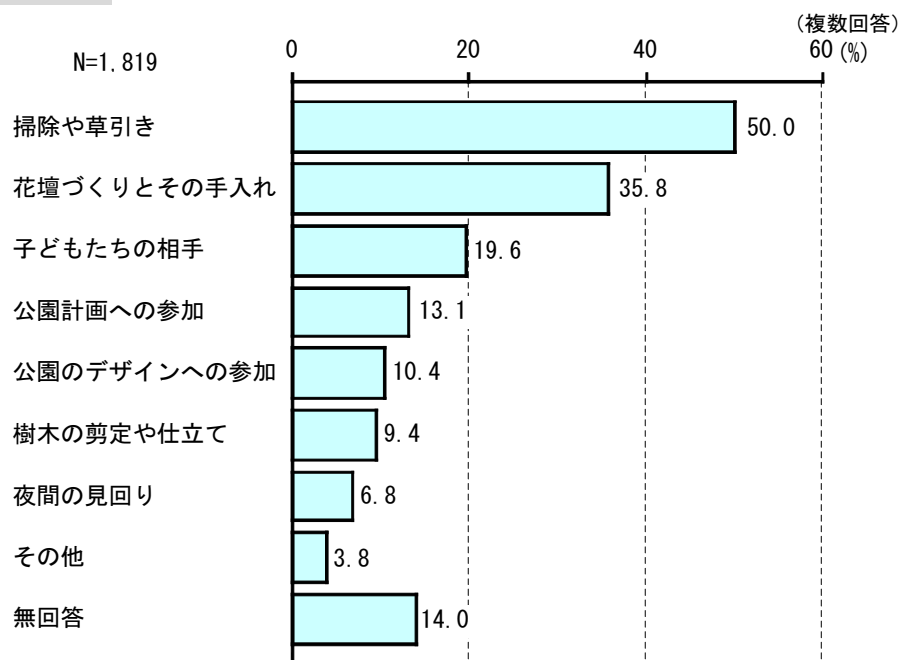
#### ●参加したい人が5割



○「公園ボランティア」への参加については、「機会があればやってもよい」が48.3%と最も多く、「ぜひやってみたい」2.9%を合わせると、全体の半数の人が参加意向を示しています。

### 5-4. 公園ボランティアでできると思うこと

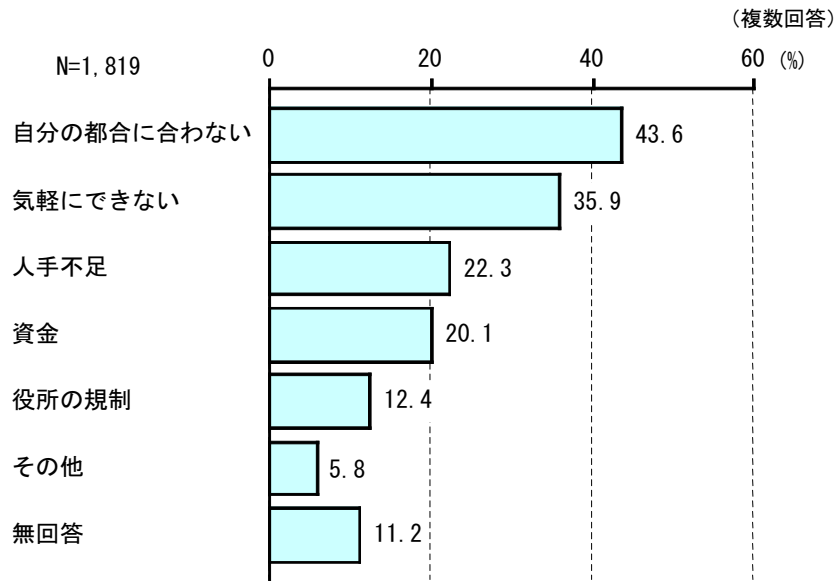
#### ●第1位は掃除や草引き



○公園ボランティアでできると思うこととして、最も多かったのは「掃除や草引き」で5割、次いで「花壇づくりとその手入れ」が3割強となっています。

### 5-5. 公園ボランティア活動の障害

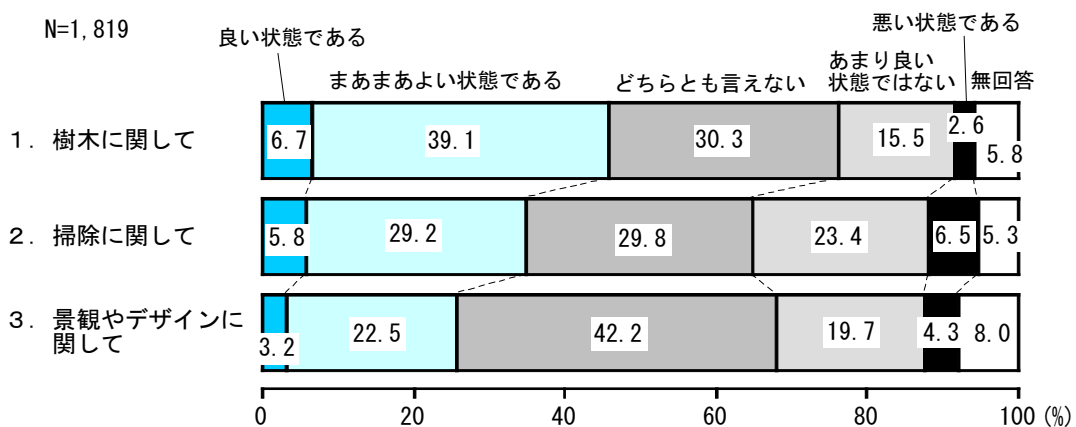
●自分の都合に合わないという回答が4割強



○公園ボランティア活動の障害になることとして、第1位に「自分の都合に合わない」(43.6%)、第2位に「気軽にできない」(35.9%)があげられています。

### 5-6. 公園全般についての感想

●評価が最も高かったのは樹木に関して

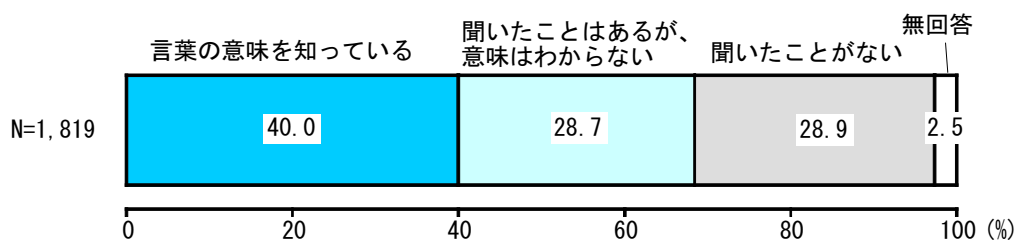


○公園全般に対する感想として、「良い状態である」「まあまあよい状態である」と評価した回答は、樹木に関して45.8%、掃除に関してが35.0%、景観やデザインが25.7%となっています。

## 6. 男女の役割や考え方について

### 6-1. 「男女共同参画社会」の認知度

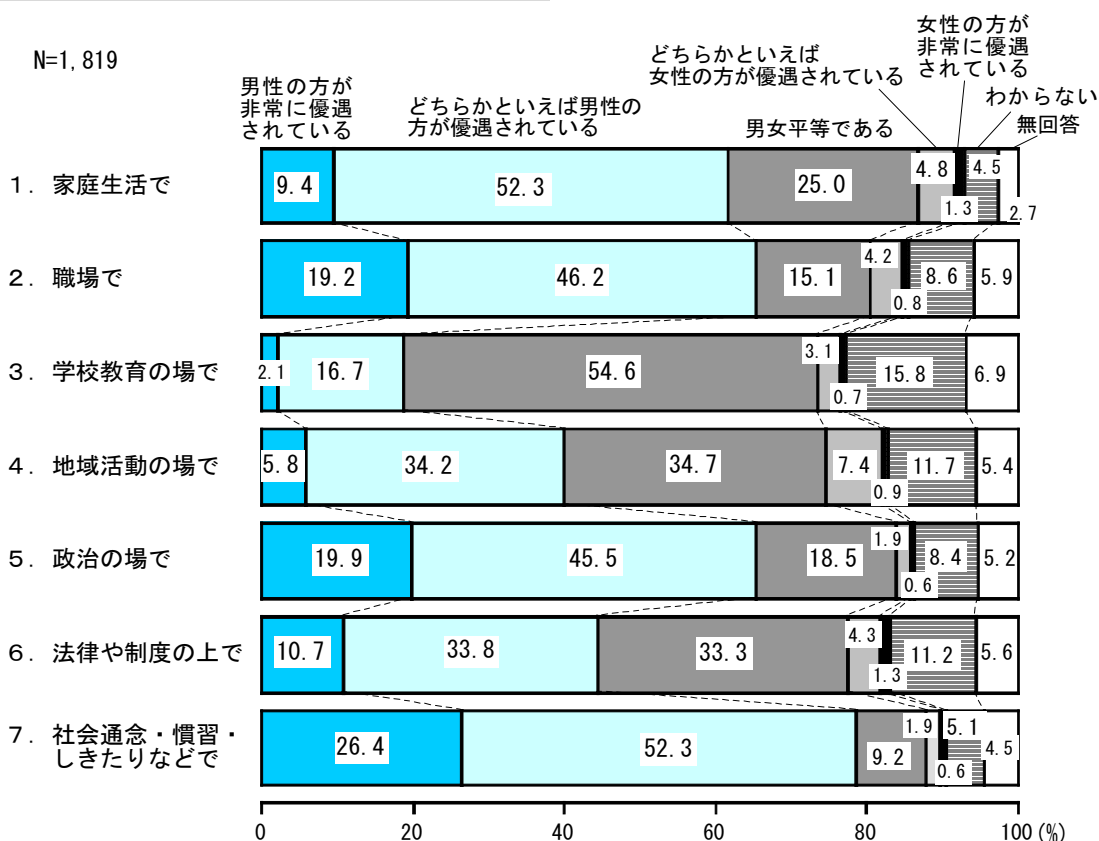
●認知率は4割



○「男女共同参画社会」について、「言葉の意味を知っている」と回答した人は全体の4割を占めています。

### 6-2. 男女平等の現状認識

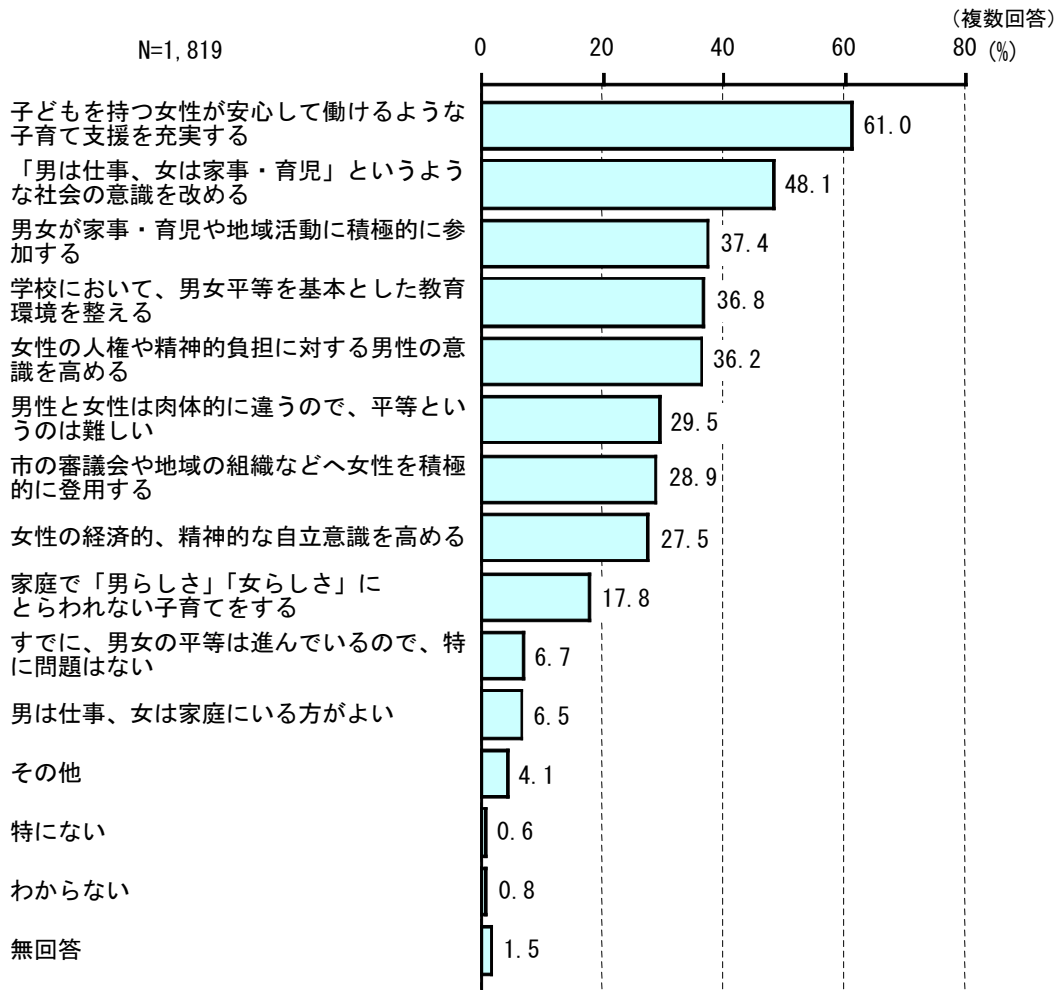
●学校教育以外の各分野では男性優遇派が最も多い



○男女の地位の平等については、学校教育以外の各分野で「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇派』が最も多く、社会通念・慣習・しきたりなどでは約8割、家庭生活、職場、政治の場では6割以上を占めています。一方、学校教育の場では5割以上が「男女平等である」と感じています。

### 6-3. 男女の人権が尊重され個性・能力を發揮するために必要な条件

#### ●仕事と両立するための子育て支援の充実が第1位

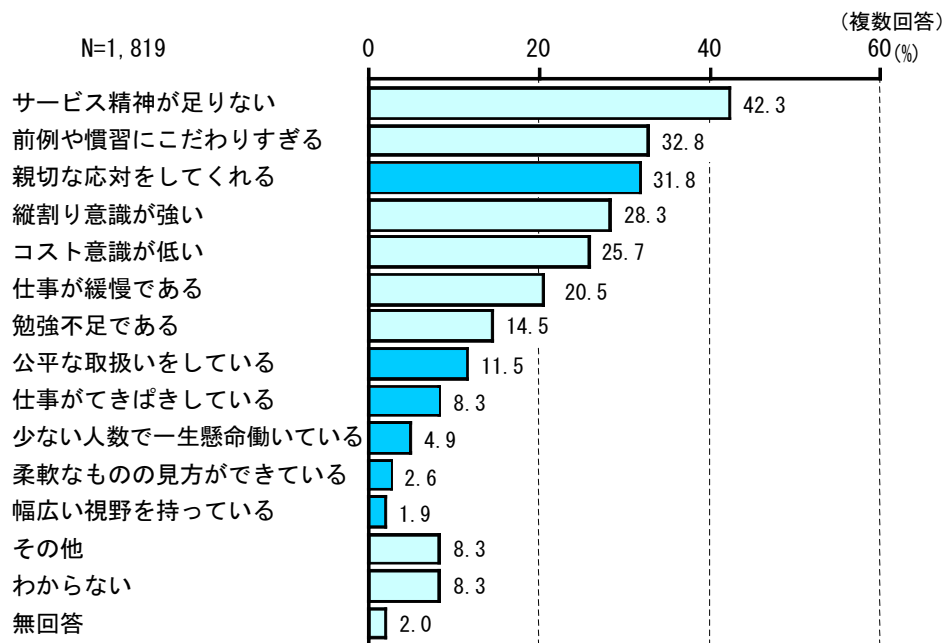


○男女の人権が尊重され個性・能力を發揮するために最も必要な条件として、全体の6割が「女性が安心して働ける子育て支援の充実」をあげており、「『男は仕事、女は家事・育児』という社会意識の改革」が約5割で続いています。

## 7. 市の行財政改革について

### 7-1. 市役所（職員）に対する印象

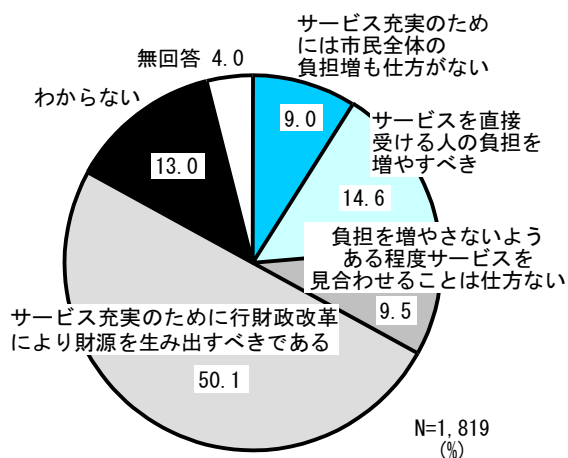
#### ●サービス精神の不足が4割



○市役所（職員）に対する印象は、「サービス精神が足りない」が4割と最も多く、次いで「前例や慣習にこだわりすぎる」が3割を占めています。

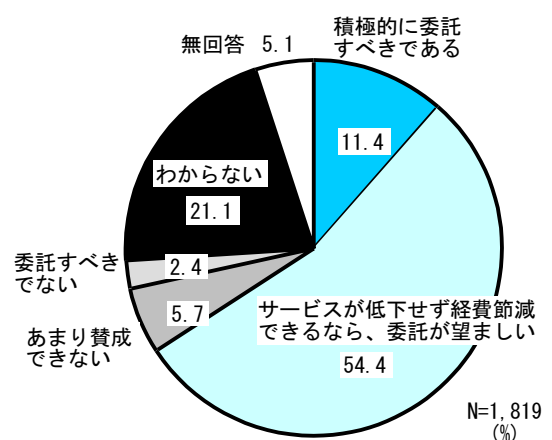
### 7-2. 市民サービスの水準と市民の負担の関係について

#### ●全体の半数は行財政改革による財源の確保でのサービス充実を希望



### 7-3. 市役所の仕事の民間委託について

#### ●サービスの維持、経費節減なら委託という人が5割以上

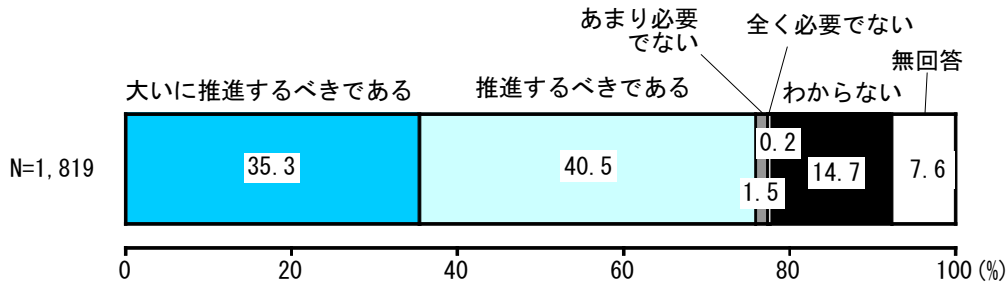


○市民サービスの水準と市民の負担の関係については、全体の5割の人は「行財政改革による財源の確保でのサービス充実」を望んでいます。

○市役所の仕事の民間委託については、「サービスの維持、経費節減なら、委託が望ましい」という人が全体の半数以上を占めています。

## 7-4. 市の行財政改革の取り組みについて

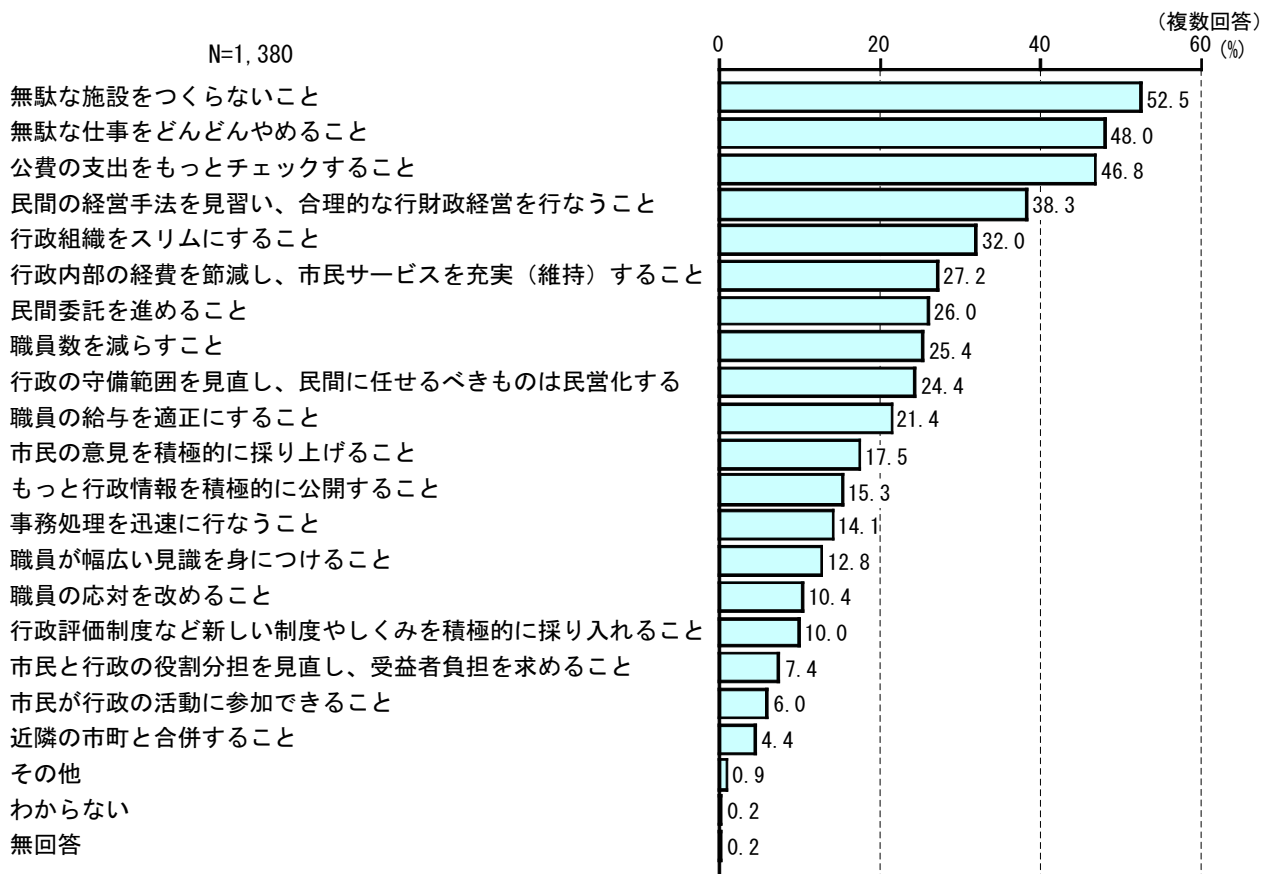
### ●全体の7割強が推進派



○市の行財政改革の取り組みについては、「大いに推進するべきである」「推進するべきである」を合わせた推進派が7割強を占めています。

### 7-4-1. 行財政改革で特に力を入れるべき事柄

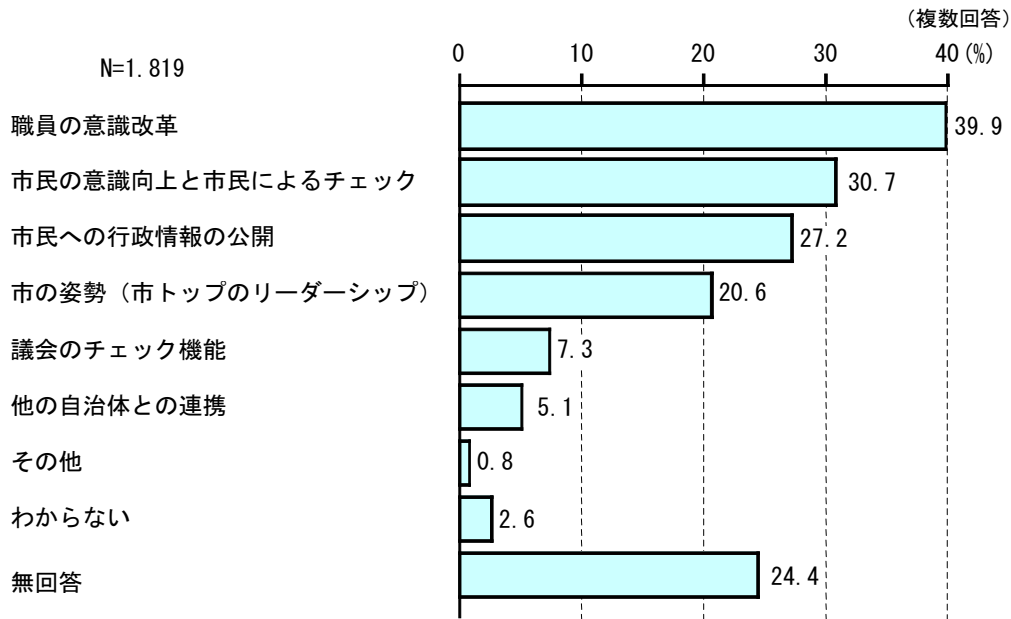
### ●上位3項目は適正な施設建設、仕事の効率化、公費支出のチェック強化



○特に必要である行財政改革として、第1位に「無駄な施設をつくらないこと」(52.5%)、第2位に「無駄な仕事をやめること」(48.0%)、第3位に「公費の支出のチェックを強化すること」(46.8%)があげられています。

## 7-4-2. 行財政改革の推進にあたって重要なこと

### ●職員の意識改革を重要とする人が約4割

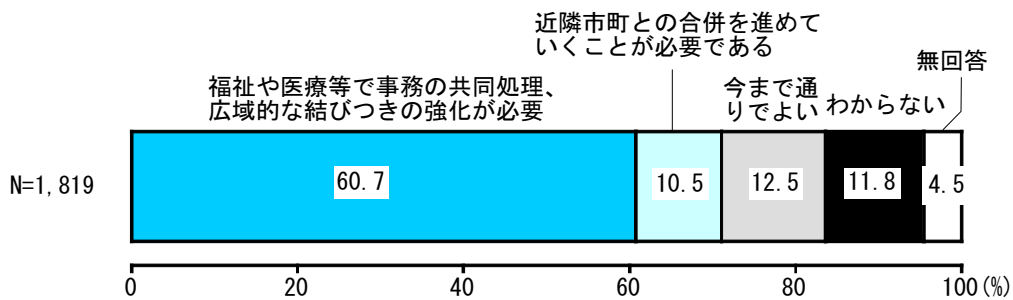


○行財政改革の推進にあたって重要なこととして、「職員の意識改革」が約4割と最も多く、次いで「市民の意識向上と市民によるチェック」が3割となっています。

## 8. 広域的なまちづくりについて

### 8-1. 広域的なまちづくり推進のために必要な取り組み

#### ●福祉や医療等での事務の共同化や結びつきの強化を必要とする人が6割



○広域的なまちづくり推進のために必要な取り組みとして、「福祉や医療等での事務の共同化、広域的な結びつきの強化」が6割を占め、最も多くなっています。

## 9. 自由意見のとりまとめ

最後の質問として、市政全般についての意見・要望・提案などを記入してもらったところ、全回答者数 1,819人中、579人(全体の31.8%)の方からの声が寄せられました。(性・年代別 自由意見数参照)

なお、複数の意見をあげている人もあり、意見数は延べ1,052 件になっています。これらの声を項目別にまとめました。(自由意見とりまとめ①、②参照)

【性・年代別 自由意見数】

	男性	女性	不明	合計	全回収数	回収数に占める割合(%)
20歳代	25	61		86	227	37.9
30歳代	37	60		97	293	33.1
40歳代	37	54		91	293	31.1
50歳代	55	78		133	435	30.6
60歳代	46	58		104	329	31.6
70歳以上	34	33		67	237	28.3
不明			1	1	5	20.0
合計	234	344	1	579	1819	31.8

【自由意見とりまとめ ①】

大項目	中項目	件数	対全件率(%)	備考
1. 生活環境	①公園・緑地	37	3.52	(6)
	②街路樹	7	0.67	
	③自然環境	19	1.81	
	④ごみ問題	39	3.71	(6)
	⑤上下水道・ガス	31	2.95	
	⑥公害対策	9	0.86	
	⑦防犯対策	44	4.18	(9)
	⑧その他生活環境	26	2.47	
	小計	212	20.15	
2. 福祉関係	①高齢者福祉	25	2.38	
	②障害者福祉	4	0.38	
	③児童福祉	6	0.57	
	④その他福祉	19	1.81	
	小計	54	5.13	
3. 医療・救急体制	①公立病院関係	8	0.76	
	②夜間・休日の救急医療体制	3	0.29	
	③その他医療	6	0.57	
	小計	17	1.62	
4. 道路・交通安全関係	①道路整備	106	10.08	(2)(3)(9)
	②交通安全対策	25	2.38	
	③渋滞対策	18	1.71	
	小計	149	14.16	
5. 交通体系	①公共交通	57	5.42	(8)
	②駐車対策	24	2.28	
	小計	81	7.70	



大項目	中項目	件数	対全件率(%)	備考
6. 市街地及び地域の整備	①地域の整備	17	1.62	
	②市街地の整備	26	2.47	
	③住宅関係	11	1.05	
	④商業施設	14	1.33	
	小計	68	6.46	
7. 教育関係	①学校教育・学校施設	33	3.14	
	②幼稚園・保育園	32	3.04	
	小計	65	6.18	
8. 文化・スポーツ関係	①文化施設・施策	27	2.57	
	②スポーツ・レクリエーション施設・施策	17	1.62	
	小計	44	4.18	
9. 市政全般	①市役所関係	30	2.85	
	②市の施策	80	7.60	(4)
	③情報提供	32	3.04	
	④税金・公共料金	53	5.04	(9)
	⑤公共施設	20	1.90	
	⑥議員・職員について	97	9.22	(1)(5)
	小計	312	29.66	
10. その他	①地域活動	21	2.00	
	②その他	29	2.76	
	小計	50	4.75	
合	計	1,052	100.00	

\*備考欄は、小項目（件数の多い意見）の含まれている中項目を示します。

【自由意見とりまとめ②】

小項目（件数の多い意見）	件数	対全件率(%)
(1) 職員の対応の改善、意識改革	61	5.8
(2) 歩道の確保、段差の解消	34	3.2
(3) 道路の拡幅・整備・凹凸の解消	33	3.1
(4) 住み良いまちづくり	23	2.2
(5) 市会議員、職員の削減	21	2.0
(6) ゴミのポイ捨て、不法投棄対策	20	1.9
公園、緑地の増設	20	1.9
(8) バス路線の拡大、増便、料金値下げ	18	1.7
(9) 南北道路の早期整備	15	1.4
税金の有効活用	15	1.4
治安の維持	15	1.4
外灯の増設、点検	14	1.3
交通網の充実	13	1.2
財政赤字からの脱却	10	1.0
無駄な道路工事が多い	9	0.9
幼稚園の2～3年保育の早期実現	9	0.9

市 民 意 識 調 査  
報 告 書  
《概要版》

平成14年2月

発行：加古川市 企画部 広報広聴課 広聴相談係  
加古川市加古川町北在家 23 番地の 1  
電話 0794-27-9120

実施：株式会社 サーベイリサーチセンター  
大阪市中央区谷町9丁目3番7号  
電話 06-6767-1341